

BKC 副専攻

2011年度生 募集要項



2011年6月
立命館大学

目 次

1. BKC副専攻とは	1
2. 募集日程	1
3. 募集・選考について	1
4. 受講登録	1
5. コース修了に要する単位数とその取り扱い	2
6. 履修上の注意点	3
7. 各コースの紹介	
ドイツ語コミュニケーションコース	4
フランス語コミュニケーションコース	6
中国語コミュニケーションコース	8
スペイン語コミュニケーションコース	10
朝鮮語コミュニケーションコース	12

1. BKC副専攻とは

BKCでは、ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語・朝鮮語・英語の各コミュニケーションコースを開設しており、必修外国語の履修などでこれまでに培った外国語運用能力をベースに、より一層高い運用能力とその外国語学習を通じて幅広い教養を身につけることを目的としています。これを「BKC副専攻」(以下、「副専攻」とする)と呼んでいます。

2. 募集日程

日程	時間	内容	場所
6月13日(月)	12:15 から 12:55	募集ガイダンス (独・中・西)	アクロスウィング1階 CLA教室
6月17日(金)		募集ガイダンス (仏・朝)	
6月20日(月) から 7月1日(金) 土・日曜日を除く	10:00 から 17:00	「登録用紙」提出	アドセナリオ1階 言語教育企画課(CLA) 窓口
7月29日(金)	10:00	受講許可者発表	言語教育企画課 掲示板 & 言語教育センターHP
9月下旬		Web 受講登録 (後期修正期間)	所属学部事務室の指示に 従ってください。

3. 応募・選考について

- (1) 副専攻の履修は「申込 許可制」となっており、1コースのみ選択可能です。
- (2) 各コースには定員が設定されていますので、応募者多数の場合は選考をします。
- (3) 選考については、登録用紙により行います。
- (4) 留学生が履修を希望する場合、母語のコースはできません。

4. 受講登録

- (1) 履修が許可された学生は、9月下旬の「後期受講登録修正」において、各自で副専攻科目を登録します。(次年度以降は4月の受講登録期間に登録します。)
- (2) 事前登録科目と重複する場合は学部事務室に相談してください。
- (3) 中国語コミュニケーションコース受講者はクラス指定がありますので、受講者はクラスを間違えないように登録してください。(指定クラスは、受講許可者発表の際にあわせて発表します。)

5. コース修了に要する単位数とその取り扱い

各コースの修了に要する単位数と取り扱いは以下の通りです。

【 経済学部・経営学部 共通 】

各コースに設置されている科目から「最低必要単位数」で定められている単位数以上修得します。

「最低必要単位数」以上修得した場合に限り「認定上限単位数」で定められている単位数を上限として、卒業に必要な単位として単位授与されます（経済学部は「教養科目」、経営学部は「自由選択科目」）。「最低必要単位数」未滿しか修得できなかった場合は、卒業に必要な単位としては認められません（つまり、要卒単位としては含まれない）。

また、副専攻科目の単位数は各学部で定められている「年間受講登録制限単位数」に含まれます。

詳しくは、各学部『履修要項』を参照のこと。

コース	卒業に必要な単位として認められる単位数			
	国際経済学科 国際経営学科		経済学科 経営学科	
	最低必要 単位数	認定上限 単位数	最低必要 単位数	認定上限 単位数
ドイツ語コミュニケーション	14	14	14	18
フランス語コミュニケーション	14	14	14	18
中国語コミュニケーション	14	14	14	18
スペイン語コミュニケーション	14	14	14	18
朝鮮語コミュニケーション	14	14	14	18

【 理工学部 】

4単位コースは4単位、8単位コースは8単位を修得した場合に限り、自由選択科目として単位授与します。ただし、4単位コースは6単位を上限とします。8単位コースについて上限はありませんが、自由選択科目が卒業に必要な単位に算入されるのは8単位までです。

「最低必要単位数」未滿しか修得できなかった場合は、卒業に必要な単位としては認められません（つまり、要卒単位としては含まれない）。

数理科学科、物理科学科の学生が副専攻の科目を修得した場合、自由選択科目として認定されますが、卒業に必要な単位には算入されません。

また、副専攻科目の単位数は、「年間受講登録制限単位数」に含まれません。

コース		卒業に必要な単位として認められる単位数	
		最低必要単位数	認定上限単位数
ドイツ語コミュニケーション	4単位コース	4	6
	8単位コース	8	
フランス語コミュニケーション	4単位コース	4	6
	8単位コース	8	
中国語コミュニケーション	4単位コース	4	6
	8単位コース	8	

8単位コースについて上限はありませんが、自由選択科目が卒業に必要な単位に算入されるのは8単位までです。

6. 履修上の注意点

- (1) 副専攻科目の配当年次は、「1年次」= 2回生、「2年次」= 3回生と理解してください。
- (2) 副専攻の再履修クラスはありません。単位が取得できなかった場合は、翌年度に同一科目または未修得の科目を受講してください。
- (3) 14単位コースでは、海外留学（協定・個別合意）および異文化理解セミナーで修得した単位を、帰国後の申請により副専攻の単位（12単位上限・異文化理解セミナーは2単位）として読み替えることができます。
申請は海外留学（協定・個別合意）からの帰国後直ちに所属学部事務室で行なってください。
一度確定した単位を遡及して「読み替え申請」をすることはできません。
- (4) 4単位コースは1単位科目を含めて、3科目以上受講するようにしてください。
- (5) やむを得ず途中でコースの履修を辞退する場合は、必ず「副専攻辞退願」を言語教育企画課（CLA）に提出してください。

7. 各コースの紹介

【ドイツ語コミュニケーションコース】 1年次定員 35名(対象学部:経済・経営・理工)

コースの位置づけ

ドイツ語の学習を通じて、現代のドイツ語圏の文化や社会を理解すると同時に、そうした国々の人々との交流に必要な高度なドイツ語表現能力養成を目的としています。併せて、多文化・多言語社会への視野を広め、理解を深めつつ、21世紀に生きる国際人の養成を目指します。具体的には、「ドイツ語検定試験」2級程度を目指した学習を行います。

科目編成

科目名	単位数	配当年次(回生)	セメスター
ブリッジドイツ語	2	1年次(2回生)	3
ドイツ語で学ぶ自然・環境	2	1年次(2回生)	4
ドイツ語で表現する日本社会	1	1年次(2回生)	4
ドイツ語で表現するドイツ社会	1	1年次(2回生)	4
時事ドイツ語	2	1年次(2回生)	4
ドイツ語で学ぶ文化・社会	2	2年次(3回生)	5
異文化コミュニケーション	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶドイツ語	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶドイツ語	2	2年次(3回生)	6
ドイツ語プレゼンテーション	2	2年次(3回生)	6
比較文化論	2	2年次(3回生)	6
異文化理解セミナー	2	単位認定	

科目概要

ブリッジドイツ語

理工学部や経済・経営学部の2言語履修コースの学生、および既習者を対象にした科目。副専攻履修のためのプレ科目的な役割も持ちます。初級文法を復習すると共に、初級文法ではまだ触れられなかった文法事項や文型を習得します。また随時視聴覚教材を用いて、聴き取る力や表現する力の向上も図ります。ドイツ語検定試験を受験するための練習も取り入れる予定です。

ドイツ語で学ぶ自然・環境

自然や環境問題をテーマにしたテキストを読んでいます。ドイツの新聞や雑誌、インターネットなどに掲載されたトピックな話題も随時紹介していきます。こうして環境大国であるドイツの現状に対する理解を深めると共に、ドイツ語の文法の復習を行ないながら、読解力やリスニング力の向上を図ることも目指します。

ドイツ語で表現する日本社会

日本の文化や社会の様々なテーマについて話しましょう。日本の文化などについての簡単なドイツ語の文章を読んでみましょう。ドイツ語で日本の文化や社会を紹介してみましょう。テーマは学生自身で選びます。文法の練習もします。ビデオを見たり、会話練習をしたりして、バリエーションのある授業にしたいと思います。

ドイツ語で表現するドイツ社会

ドイツの実情について勉強します。ドイツの経済、社会、文化、現代生活など、ドイツの様々な面を紹介します。プリントだけではなく、パワーポイントと映像も使用します。

時事ドイツ語

現代の生きたドイツ語のあらゆるテーマを取り上げます。例えば、ドイツ語にどのような言い回しが使われているか、その言い回しがどこに由来しているかなどです。また、英語がドイツ語にどのような影響を与えているかについても議論します。日本語とドイツ語の比較も行います。

ドイツ語で学ぶ文化・社会

ドイツで起きた出来事の中から幾つかのトピックスを選び、ドイツ語を学びながら最新のドイツの文化や社会の状況を学んでいきます。時にはドイツのテレビニュースも見ながらリアルタイムのドイツの現状を学びます。

異文化コミュニケーション

日本とドイツの文化の違いや似ているところなどについて話しましょう。ドイツ語で日本の文化を紹介してみましょう。テーマは学生自身で選びます。文法の練習もします。ビデオを見たり、会話練習をしたりして、バリエーションのある授業にしたいと思います。

映像・CALL で学ぶドイツ語

ビデオや CD などの視聴覚教材を用いて、リスニング能力やコミュニケーション能力の向上を図ります。また随時プリントを配布して、演習的な授業もおこない、ドイツ語の表現力や文法力の向上も図り、ドイツ語の全般的な運用能力の充実を目指します。映画鑑賞なども随時取り入れる予定です。

映像・CALL で学ぶドイツ語

中級程度のアクチュアルな文章を読みながら、現代ドイツの社会や文化に対する知識を増大させるとともに、読解力の一層の向上を目指します。初級文法の復習を行うと同時に、随時ビデオや CD などの視聴覚教材を用いて、リスニング能力の向上を図ります。

ドイツ語プレゼンテーション

作文練習には、すでに学んだ文法や語彙の知識が前提とされますが、それら知識を「知ってる」レベルからそれらを「運用できる」レベルに高めていくのにもっとも効果のある方法でもあります。今までに学習した文法事項を確認しながら、簡単な日本語をドイツ語で表現できるようにしていきます。また単語の単なる並び替えのような安易な学習を避け、日本語とドイツ語の表現法の違いについても学びます。後半では、ドイツ人が日本について知りたいと思うこと、また日本人がドイツ人に教えたいと思う事柄をいくつか選び、ドイツ語で簡単に説明できるよう指導します。

比較文化論

日本とドイツの文化を比較してみましょう。両文化の違いや似ているところを考えましょう。ドイツ語で日本やドイツの文化を紹介したり、討論したりしてみましょう。テーマは学生自身で選びます。文法の練習もします。ビデオを見たり、会話練習をしたりして、バリエーションのある授業にしたいと思います。

【 フランス語コミュニケーションコース 】 1年次定員 35名 (対象学部：経済・経営・理工)

コースの位置づけ

基本的な目標は、国際化の時代において求められるフランス語能力を身につけ、実務や生活に活かすことです。やや高度な言語素材も教材としてあつかい、フランス語圏の社会や文化の理解にもつとめます。目標をさらに具体的に設定すれば、1年次で仏検4級から3級程度、2年次で3級から2級程度の能力といえます。

科目編成

科目名	単位数	配当年次(回生)	セメスター
ブリッジフランス語	2	1年次(2回生)	3
フランス語で学ぶ自然・環境	2	1年次(2回生)	4
フランス語で表現する日本社会	1	1年次(2回生)	4
フランス語で表現するフランス社会	1	1年次(2回生)	4
時事フランス語	2	1年次(2回生)	4
フランス語で学ぶ文化・社会	2	2年次(3回生)	5
異文化コミュニケーション	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶフランス語	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶフランス語	2	2年次(3回生)	6
フランス語プレゼンテーション	2	2年次(3回生)	6
比較文化論	2	2年次(3回生)	6
異文化理解セミナー	2	単位認定	

科目概要

ブリッジフランス語

主として経済、経営、理工の2言語履修の学生、既習者を対象とし、初級フランス語の復習と、副専攻履修のための準備を行うものです。仏検4級の準備のための教科書を用い、2言語履修者に不足しがちな構文把握力、リスニング能力などを補います。

フランス語で学ぶ自然・環境

初級を終えたばかりの学習者を対象とし、既習の事項を総復習すると共に、実践的なフランス語運用能力を身につけることを目指します。特に、副専攻に登録したばかりの2回生は、まず本講座を履修して下さい。授業の各回では、特定の文法事項に照準を合わせ、そこから「語彙」・「会話表現」・「文化」へと発展させていきます。毎回、聞き取り問題や文法問題をたくさんこなし、フランス語への多角的なアプローチを試みることにします。

フランス語で表現する日本社会

いわゆる会話中心の学習に留まらず、「読む」能力、「書く」能力を向上させることで、総合的なコミュニケーション能力の開発を目指します。そのため、文法の学習も随時授業に取り入れていきます。

フランス語で表現するフランス社会

フランス語の基本文法を勉強しながら、自分自身の日常生活や興味を持っていることについてフランス語で話す練習をします。自然にフランス語が口をついて出るよう、会話練習とさまざまな練習問題を行います。「文化」と「語学」を融合させ、フランス語への多角的なアプローチを試みることにします。

時事フランス語

現在のフランス社会に関する読み物の読解を中心とし、それに必要な文法的要素を補っていきます。さらに、余った時間で映画などの聞き取り練習を行います。

フランス語で学ぶ文化・社会

初級を終えた学習者を対象とし、既習の事項を総復習すると共に、実践的なフランス語運用能力を身につけることを目指します。2010年度後期の「フランス語で学ぶ自然・環境」と連動していますので、それを履修した人は本講座も引き続き履修して下さい。授業の各回では、特定の文法事項に照準を合わせ、そこから「語彙」・「会話表現」・「文化」へと発展させていきます。毎回、聞き取り問題や文法問題をたくさんこなし、フランス語への多角的なアプローチを試みることにします。

異文化コミュニケーション

日常生活で用いられるフランス語を口頭練習し、同時に、その背景となる文化の理解を目的とします。基礎的な文法と語彙を復習すると共に、それを大きく発展させていこうと思います。

映像・CALLで学ぶフランス語

フランスでの日常生活のさまざまな場面で交わされる会話を中心に、そこで使われる基本的な語彙や表現を覚え、耳と口と手を使って内容を理解します。

映像・CALLで学ぶフランス語

視聴覚教材を使用し、会話練習、文法説明、フランス文化についての考察、時事問題の検討、などを行います。語学力を多角的に高めることができます。

フランス語プレゼンテーション

教科書やインターネットを用いてフランス語会話や作文を練習し、フランスの社会と文化について学ぶ。毎週それぞれのトピックから重要な単語を取り上げ、実践的な会話の練習を行います。フランス語会話(初級と中級)で得た知識をもとに、会話を中心に、読み・書き・文法を含めたフランス語の総合的運用能力をさらに向上させるための講義を行います。

比較文化論

仏検3級取得者程度以上を対象とし、既習の事項を総復習すると共に、実践的なフランス語能力、特に聞き取り能力を身につけることを目指します。各回では、DVDで、ニュースや様々な日常の場面を見ながらフランス語の聞き取りを行い、さらに聞き取った内容に関する問題を解いていきます。そのように、練習問題をたくさんこなしながら、フランス語学習に留まらず、日仏文化の比較という大きな問題への多角的なアプローチを試みることにします。授業のレベルは少々高めに設定されています。

【中国語コミュニケーションコース】 1年次定員 70名(対象学部：経済・経営・理工)

コースの位置づけ

現代中国に対する的確な認識と理解を基礎に、中国語の総合運用能力をいっそう発展させる(特に高度な読解能力・表現能力の養成)ことを通じて、国際社会(台湾・香港などを含む中国圏、さらにはアジア関連分野)において活躍し得る力量の獲得を目標としています。具体的には、「中国語検定試験」の2級合格程度をめざします。なお、自主的に学ぶことの重要性からサブゼミ的な集団学習を促進し、また、本学に留学してきている数多くの留学生(院生も含む)の協力を得て活発な交流をはかります。

科目編成

科目名	単位数	配当年次(回生)	セメスター
ブリッジ中国語	2	1年次(2回生)	3
中国語で学ぶ自然・環境	2	1年次(2回生)	4
中国語で表現する日本社会	1	1年次(2回生)	4
中国語で表現する中国社会	1	1年次(2回生)	4
時事中国語	2	1年次(2回生)	4
中国語で学ぶ文化・社会	2	2年次(3回生)	5
異文化コミュニケーション	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶ中国語	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶ中国語	2	2年次(3回生)	6
中国語プレゼンテーション	2	2年次(3回生)	6
比較文化論	2	2年次(3回生)	6
異文化理解セミナー	2	単位認定	

*配当年次(セメスター)は一つの目安であり、学生の履修計画を尊重する。

科目概要

ブリッジ中国語

理工学部生と経済・経営の2言語履修コース学生および既習者を対象とした科目。副専攻履修のためのプレ科目的役割をもたせ、週2回履修者に不足がちなりスニング能力を養成するため、ビデオ教材、CALL教材などの視聴覚教材を多用する。

中国語で学ぶ自然・環境

中国語で書かれた中国の自然、環境、文化などに関する文章を読み進める。中国語の読解能力を養い、また中国の現状についてもいろいろな角度から学んでいく。

中国語で表現する日本社会

「中国語で表現する中国語社会」に対応する科目。この科目では、中国の社会と文化の特徴を日本と比較しながら学ぶとともに、その差異を中国語で表現できることを目標に、書く力と表現力の訓練を行う。

中国語で表現する中国語社会

「中国語で表現する日本社会」に対応する科目。この科目では、中国の社会と文化の特徴を日本と比較しながら学ぶとともに、その差異を中国語で説明できることを目標に、スピーキングとライティングの訓練を行う。ビデオ教材も併用する。

時事中国語

講読を中心とした授業です。中国が直面する課題を人文・社会科学系および自然科学系の専門書から取り上げた文章を読み、中国語の読解能力の向上を図り、また中国国内の社会状況への理解を深める。

中国語で学ぶ文化・社会

教材を通して中国の最新事情に触れ、中国における文化・社会を学習しながら中国語学の読解能力を身につける。

映像・CALL で学ぶ中国語

コミュニケーション能力および表現力の向上を重視する授業である。CALL およびビデオなどから構成された視聴覚教材を使ってリスニング能力の向上を図るとともに記述解答などを通して表現力および文法力の定着を目指す。

映像・CALL で学ぶ中国語

コミュニケーション能力および表現力の向上を重視する授業です。CALL およびビデオなどから構成された視聴覚教材を使ってリスニング能力の向上を図るとともに記述解答などを通して表現力および文法力の定着を目指します。また、中国語でのプレゼンテーションなどの能力も養成します。

中国語プレゼンテーション

本授業は、中国語の総合的な応用能力の向上を目指すものである。現代中国の大学生生活についての勉強を通して、中国社会・文化についての理解を深める。

比較文化論

中国語表現力の向上をめざす会話と作文を中心とした授業である。この授業では会話の常用表現はもちろん、身近なものを題材とし、中国語での作文およびその添削を行うことによって中国語の正確な表現を身に付けることを目的とする。またビデオなどを用いながら中国の社会や文化など異文化への関心を育成する。

【 スペイン語コミュニケーションコース 】 1年次定員 35名(対象学部：経済・経営)

コースの位置づけ

スペイン語圏(スペイン、中南米諸国)の歴史、文化や現代社会についての専門的知識を身につけるとともに、国際社会で活躍できる高度なスペイン語運用能力を獲得することを目標とします。具体的目標としては、スペイン文部科学省実施のDELE(Diploma de Español como lengua Extranjera)の初級(さらに中級)合格、および日本スペイン協会実施のスペイン語検定3級(さらに2級)合格を目指します。上記目的達成のために、異文化理解セミナー参加を大いに奨励します。また、副専攻受講者より、半年または1年間の留学生がであることを期待しています。

科目編成

科目名	単位数	配当年次(回生)	セメスター
スペイン語で学ぶ自然・環境	2	1年次(2回生)	4
スペイン語で表現する日本社会	1	1年次(2回生)	4
スペイン語で表現するスペイン社会	1	1年次(2回生)	4
時事スペイン語	2	1年次(2回生)	4
スペイン語で学ぶ文化・社会	2	2年次(3回生)	5
異文化コミュニケーション	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶスペイン語	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶスペイン語	2	2年次(3回生)	6
スペイン語プレゼンテーション	2	2年次(3回生)	6
比較文化論	2	2年次(3回生)	6
異文化理解セミナー	2	単位認定	

科目概要

スペイン語で学ぶ自然・環境

スペインの自然・風土・歴史について平易なスペイン語で書かれた文献を読みながらスペインについての理解を深める。あわせて、文法事項を確認するとともに、スペイン語の初級～中級程度の読解力を養う。

スペイン語で表現する日本社会

日本の社会についてスペイン語で学習し、日本の文化・伝統に関する事柄をスペイン語でどのように表現するのかを学んでいきます。日本文化について、その語彙・語句・慣用表現・ことわざをスペイン語で学ぶことをとおして、それぞれの言語の世界の捉え方の違いを理解します。

スペイン語で表現するスペイン社会

この授業では現代スペインの人々の生活と文化を中心にしながら、その他の多くのスペイン語圏の国々についても学習し、スペイン語で表現していく機会を、できるだけ多く設ける。実際の授業では、テキスト(のスペインに関する各章)にしたがって進めていくが、適宜プリントやAV教材も利用する。

時事スペイン語

西字新聞あるいは雑誌から、スペイン語圏の時事問題を拾い、その社会情勢を追う。同時にスペイン語読解能力の向上を図る。

スペイン語で学ぶ文化・社会

スペイン語のさらなる学習を通じて、スペイン語圏の社会や、人々の生活・習慣などを学んでいく。随時プリントやA V教材を利用する。

映像・CALL で学ぶスペイン語

ビデオ教材あるいは映画を見ながら、その音声の内容もしっかり理解できるよう、日常会話の表現の習得とリスニング能力を養成する。また、文法の復習もし、スペイン語の語彙、表現を増やし総合的なスペイン語能力の向上をはかる。

映像・CALL で学ぶスペイン語

スペイン語圏の CD・DVDなどを視聴しながら、リスニング能力を養成する。聞き取った音を文字にすることによって総合的なスペイン語運用能力の向上を図る。

スペイン語プレゼンテーション

日常生活に関わるいろいろなテーマについて自分の意見をスペイン語で主張できるようにする。自分の意思を相手に伝えるようにするにはどうすればいいのか、どのように表現すればいいのか、みんなで考えていきます。

比較文化論

21の国・地域からなるスペイン語圏。話されているスペイン語にも多少の差異があります。この相違を学ぶとともに、スペイン語圏の国々そして日本の文化・伝統を比較し、異文化への関心を高めます。

【 朝鮮語コミュニケーションコース 】 1年次定員 35名(対象学部：経済・経営)

コースの位置づけ

朝鮮語圏の歴史、文化や現代社会についての深い知識を身につけるとともに、朝鮮半島(大韓民国、朝鮮民主主義人民共和国)から発信される様々なメディア情報を利用したレポート作成やプレゼンテーションを行ったり、ビジネスから芸能に至るまでさまざまなカテゴリーに対応できるコミュニケーション能力を養成します。将来、国境や民族を越えた幅広い社会領域で活躍するための基本的なスキルの獲得が目標です。短期、長期の様々な韓国留学を目指す学生は、履修を奨励します。ハングル語能力検定試験準2級レベル、韓国語能力試験中～高級程度を目標とします。

科目編成

科目名	単位数	配当年次(回生)	セメスター
朝鮮語で学ぶ自然・環境	2	1年次(2回生)	4
朝鮮語で表現する日本社会	1	1年次(2回生)	4
朝鮮語で表現する朝鮮社会	1	1年次(2回生)	4
時事朝鮮語	2	1年次(2回生)	4
朝鮮語で学ぶ文化・社会	2	2年次(3回生)	5
異文化コミュニケーション	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶ朝鮮語	2	2年次(3回生)	5
映像・CALLで学ぶ朝鮮語	2	2年次(3回生)	6
朝鮮語プレゼンテーション	2	2年次(3回生)	6
比較文化論	2	2年次(3回生)	6
異文化理解セミナー	2	単位認定	

科目概要

朝鮮語で学ぶ自然・環境

自然と環境などに関わる諸問題について朝鮮語で書かれた文章で読みます。語彙、表現を学び、読解力を高めて朝鮮語の文献を読解するのに必要な能力を身につけるとともに、自然・環境問題に分析的にアプローチし、朝鮮語で自分の考えや主張を表現する時間でもあります。

朝鮮語で表現する日本社会

これまでの基礎、展開で学習した文法を復習しながら、さらに新しい文法を学習します。授業では、朝鮮語で書かれた日本社会と文化を紹介する文章を読み、語彙力を増やしつつ、朝鮮語の理解力と運用能力を高めていきます。

朝鮮語で表現する朝鮮社会

朝鮮語で書かれた韓国社会と文化を紹介する文章を読み、語彙力を増やしつつ、朝鮮語の理解力と運用能力を高めていきます。そして、読んだ文章のあらすじを朝鮮語で話し、その内容についてディスカッションを行います。テキスト(プリント教材)を毎回一話のペースで進みます。

時事朝鮮語

韓国・朝鮮語の新聞や雑誌、書籍から朝鮮半島の「いま」を知ることのできる記事をピックアップして、文法事項も解説しながら一緒に読み解いていきます。また韓国のテレビニュースやドキュメンタリー番組を使って、ヒアリングの練習にも取り組む予定です。

朝鮮語で学ぶ文化・社会

朝鮮語で作文する力を育てていきます。まず、韓国の文化や社会を紹介する朝鮮語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、朝鮮語の運用能力を高めていきます。また、韓国のドラマや映画なども見て、その内容についてディスカッションをし、それについて朝鮮語で書く練習を行います。

異文化コミュニケーション

韓国社会や文化について朝鮮語で書かれた文章を読み、語彙力を増やしつつ、朝鮮語の運用能力を高めていきます。またドラマや映画などをみて、その内容のあらすじを朝鮮語で話し、ディスカッションを行います。それを通して異文化としての韓国社会に対する理解を深めて行きます。

映像・CALL で学ぶ朝鮮語

CALL およびビデオなどの視聴覚教材を使って、リスニング能力の向上を図るとともに、適切な語彙や文型を駆使して表現する訓練を行います。

映像・CALL で学ぶ朝鮮語

CALL およびビデオなどの視聴覚教材を使って、リスニング能力の向上を図ります。韓国のドラマ（毎回一話30分）鑑賞を通じて、聞き取りの訓練と現在韓国の日常生活で使われている口語体の表現を学びます。またインターネットを使って情報を受信・発信することも目指します。

朝鮮語プレゼンテーション

与えられたテーマ、または自分で選んだテーマに関連する資料を集めて分析し、朝鮮語で自分の意見を主張する練習をします。発表後はそれについてみんなでディスカッションを行い、日常的な会話とは違った、論理的に自分の意思を伝える表現について学びます。

比較文化論

より高度な文法知識及び多様な表現について学び、読解力・作文力を身につけていきます。まず、韓国の文化を紹介する朝鮮語の文章を読み、語彙力を増やしつつ、朝鮮語の運用能力を高めていきます。また韓国のドラマや映画などを使い、その内容についてディスカッションをします。韓国の文化と社会の特徴を日本のそれと比較しながら、その差などについての自分の意見を朝鮮語で書く練習をします。